

本二千餘の大小團體各々憂國慨世の言論ありと雖もそは皆他者の宛直しか受賣りか賣名にあらずば衣食の爲か一として國家百年の大計の爲には身命を捧げて惜まざる底の眞の志士仁人は雨天に明月を求むるより難く雨面して北星を見んとするが如し。斯かる中に國士頭山崎翁を顧問とし内田良平先生を總教とし昭和青年の大指導者であり神州日本の安危は我等の双肩にありと静かに天地に獅子吼する吉田益三氏を委員長とする大日本生産黨の支部結成を見たるは眞に御家の爲慶賀に耐へざらんや、嵐の日本内憂外患交々迫る世界の盟主神の國の出現の秋に高天ヶ原聖地九州に同志集りて天地に結盟し朗曙日本建設の行者として今日其の結成を見る。遠く遊説の地より一文を草して送り以て祝辭に代ふ。

8、各地支部代表挨拶

大日本生産黨 吳支部  
大日本生産黨京都府聯合會

田川支部準備會

日 高 義 彦

別府支部

山 本 豊 國 彦

八幡支部準備會

大 保 宗 義

9、本部役員挨拶

關西本部書記長 柴 山 滿

玄海の波打寄する多々良濱邊に、大日の愛國の熱情は脈々として流れてゐる、日蓮や平野國臣の姿は福岡市民諸君の意氣と熱でなければならぬ、非常時日本の爲、九州の同志は決然と起て

10、天皇、皇后兩陛下萬歲三唱